

## 平成27年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	特別支援教育の実践研究の推進 ～大学との連携を生かした取組を中核に～
事業実施代表者名	杉 江 光
実施附属学校名	附属旭川幼稚園
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>本園が地域の先進園として地域のニーズに応えるために、特別支援教育の具体的な指導のあり方等を提案し、地域の教育に貢献する取組である。そのために、大学の特別支援教育分野との連携を図りながら実践研究を進め、特別な支援を要する幼児に対してきめ細かな支援ができる体制を整備し、支援の改善充実を図る。また、実践交流の場として事例研修会や授業力向上セミナー（特別支援教育研修会）を開催する。</p> <p>具体的内容は次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別に支援を必要としている幼児を対象にして、年間を通して保育補助員を配置し、担任・副担任とのティームティーチングを行い、個別の支援体制を確立し、きめ細かな指導を行った。その際に、保育補助員は特別支援教諭免許保有の前幼稚園教諭を雇用した。</li> <li>・本園の特別支援教育の推進に、大学の専門教員を特別支援教育のアドバイザーとして招き、定期的に園内研修やケース会議を設け、専門的な視点から助言を受けた。</li> <li>・本大学の特別支援教育の萩原教授を招いて、上川管内の公立幼稚園や旭川市内の幼稚園・保育園・関係機関に参加を募り、特別支援教育事例研修会を実施した。（7月29日実施）</li> <li>・本大学の特別支援教育の萩原教授（旭川校）、齋藤准教授（札幌校）公立小学校特別支援コーディネーターを招いて、授業力向上セミナーを開催した。午前中は幼稚園・小学校の事例をもとに研究協議、午後からは3人の先生方による鼎談を実施した。本園職員、附属小中教員、市内幼稚園教諭、小学校教諭77名が参加した。（1月13日実施）</li> <li>・特別支援教育専攻の大学生が、定期的に預かり保育担当として本園にきて、子どもたちとかわっている。</li> </ul>
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別に支援を必要としている対象幼児に対して、保育補助員を年間保育日数の約50%の日に配置することにより、対象幼児の集団への適応や基本的な生活習慣の定着を図ることができた。また、その子どもに対して適切な声かけなどを行うことで、安心感を与え対人トラブルやパニックを起こす回数も極端に少なくなり、結果的に園生活を楽しいものにさせている。保護者からもきめ細やかな指導に対して大変感謝されている。また、他の保護者からも特別支援に対する理解が得られてきた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園の特別支援教育の推進に、大学の専門教員を特別支援教育の本園外部コーディネーターとして位置づけ協力いただくことにより、より専門的な視点から実態を捉えた具体的な助言を得ることができた。関係機関連携や保護者対応のアドバイスを受けて、実際に担任と一緒に対応したりすることで、教員が保育に対して自信をもって取り組むことができた。</li> <li>・上川管内の公立幼稚園や旭川市内の幼稚園・保育園・関係機関に参加を募り、特別支援教育事例研修会を実施することにより、地域における幼児期の特別支援教育推進の普及・啓発につながった。また参加した幼稚園教諭や保育士からは、具体的なアドバイスや援助の仕方がわかり大変勉強になったとの声が多く聞かれた。</li> <li>・幼稚園や保育所、小中学校教員に対して授業力向上セミナー（特別支援教育研修会）を実施した。本学の教員を招いての鼎談は大変好評であった。特別支援に対する認識が変化したり、困り感をもつ子どもに対しての接し方がわかったりしたとの感想が多かった。</li> <li>・特別支援教育専攻の大学生を預かり保育担当として配置することにより、将来特別支援教育や幼児教育に関わる人材の育成につながった。</li> </ul> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育補助員と担任・副担の打合せの時間が配置時間の関係で十分に確保できなかった。指導法の検討時間が十分取れていない現状がある。</li> <li>・特別支援教諭免許を持っている保育補助員を継続的に確保していく難しさがある。</li> </ul>
<p>今後の発展性 （残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述）</p>	<p>充実した園内体制で特別支援教育を推進するためには、保育補助員やコーディネーターは専門的な指導や援助ができる人材を継続的に配置することが必要である。</p> <p>今後は職員全体で園内研修や事例研修を進めながら専門的な指導力を高めていくと同時に、保育補助員がいない場合でも効果的な指導ができるように担任との文書による引継やと園全体の指導体制を再検討していく。</p> <p>また、近年特にニーズの高い特別支援教育について、本大学教員による「事例研修会」や「講演会」等を継続して開催していく必要がある。</p>
<p>事業の公表状況 （事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入）</p>	